○　平野国臣筆「和歌短冊書翰貼交幅」寄贈される

この幅は紙中の中段に右から「大君の」，「数ならぬ」，「海山の」の和歌短冊３葉を貼り，下段には国臣が尊父に宛てた書翰４通が４段に貼られてある。書翰は８月16日付２通，８月22日付１通，10月朔日付１通で，生野義挙を目前に控えた国臣の慌しい行動が見え，いずれも史料価値の高いものであるが，ことに最後のものは尊父への決別の書翰として見る者の心をえぐる。

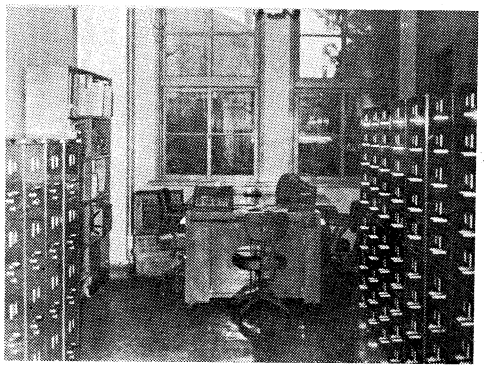
寄贈者は神戸市在住の陣野稔氏で，国臣の実兄の曽孫にあたられる方であるが，同家からは先にも国臣の佩刀と愛用の横笛および有名な紙捻詩歌帖の寄贈を受けている。先の寄贈品といい，今回のものといい，一家の至宝であり国家の貴重な資料であることを思うとき，こうしたものをも保管していく図書館使命の重大さを痛感する次第である。

――― 館内めぐり ―――

地磁気世界資料室

国際地球観測年事業は1957年７月より開始され，当地磁気世界資料室が付属図書館に同年12月に開設された。 また国際地球観測年事業の地磁気部門として， 世界資料センターは，４カ所（日本，アメリカ，ソ連，デンマーク）あって，日本では当資料室にセンターがおかれている。

地磁気観測所は 世界各地に約250カ所あって， 資料を観測所から直接送付してくるものもあるが，大部分は他のセンターを通して送られてきている。この資料の大部分はマイクロフイルムプリントにされてあるが， シートとして送られてくるところもある。ＩＧＹ（国際地球観測年）は1957年７月から1958年12月までの期間であったが，その後も観測が続けられ，1964年１月よりＩＱＳＹ（国際太陽静穏年）がはじまり，これらの資料についてもＩＧＹ同様の事業が行なわれている。この他観測所の資料は整理されて印刷物として直接当センターに相当数送られてきている。これらの到着した資料は，資料送状と照合した後，到着状況を示すための事務上の手続を経たのち，これを，日本学術会議国際地球観測資料室に送付する分の１本と，研究者の利用に供するための保存用が１本，計２本を本館文献複写室で，フイルムコピーする。この保存用のための資料は北側の部屋にある地磁気世界資料閲覧室に保管され，研究者に利用されている。資料の貸出も行なっている。又一方内外の研究機関への資料提供も行なっている。



センターの本来の使命として国内の観測所はもとより，オーストラリヤ，ニユージランド，フイリピン，インド，インドネシヤから寄せられてきた資料を他の各センターに即刻送付しなければならない。このなかには南極観測で知られている昭和基地観測所の資料も含まれている。又年に１回カタログを発行しているが，これはプロジエクト（資料の内容種類）別に分類した資料の到着状況を示すものであって，各センター，内外の研究機関及び観測所に送付している。

この資料室の運営については京都大学の地球電気磁気学関係の研究者が関係している。